

編集室

＊ 本年5月より編集理事に就任しましたNTT研究所の三宅です。よろしくお願い致します。電子情報通信学会にはNTT研究所に入社以来30年近くお世話になっています。若いころは、毎月のように研究会に出席していろいろな方の研究発表をお伺いし、また自らも発表し、社外の方々からいろいろな御意見、御指導を頂きました。懐かしい記憶です。その当時お知り合いになった方々の何人かとは公私にわたり今でもいろいろとお付き合い頂いています。私の企業人としての研究活動は学会入会以降始まったといっても過言ではありません。その意味で本学会には大変お世話になったこともあり、御恩返しといったは僭越ですがここ何年か別の立場で学会活動に参加させて頂いております。一昨年まではNS研究専門委員会の副委員長、委員長をそれぞれ2年にわたって務めさせて頂きました。また、昨年度までは評議員を1年間務めました。研究会活動はほぼ毎月行われる研究会の運営企画やそれへの参加（夜の懇親会だけというのが結構多くて申し訳なかったですが）、研専運営委員会への参加などありました。ある意味古巣との付き合いでもあり不謹慎かもしれませんが楽しませて頂きました。研究会のお世話役としてこれだけはとこだわったのは、招待講演やテーマ選定を含むコンテンツの充実です。研究会では、自らの研究成果を世に問うということは当然ですが、外部の新しい知見あるいは新しいテーマにチャレンジするときのサーベイ、更には今問題になっている課題といったことが研究者にとってはいろいろ役立つものです。研究会を通じてこのような情報を発信することが研究会自体の活性化につながると考え、研究会幹事の方々のお知恵を拝借しながら4年間やってきたつもりです。

＊ そして今回、前任の山本編集理事を引き継いだわけですが、5月以降学会誌、論文誌の編集委員会、著作権管理委員会等々様々な会議が続き山本さんや現編集理事の早大田中先生から学会理事としては最多忙な役職と脅されてはおりましたが、そのとおりであると痛感しております。確かに学会

誌、論文誌は学会の重要な活動の一つであり、会員の研究成果や技術普及活動のかなめです。学会誌、論文誌のコンテンツが充実することによって本学会がより魅力ある学会として発展することにつながると信じております。

＊ また、若いころは、気楽に論文投稿していた身でしたが、その発行業務の遂行には多くの委員の方々の縁の下での力持的な御苦勞がなされていることを目の当たりにして頭の下がる思いです。感心しておりますのは、これら委員会の運営がシステムティックに行われていることです。学会誌の編集委員会一つとっても出版月に対応して編集委員のグループ構成がなされ、相互に連携しながら流れ作業的に運営が行われています。恐らく、諸先輩の長年にわたる活動、試行錯誤を通じて培われたノウハウが継承されていることの結果だと思えます。学会誌にしても、論文誌にしても実際の発行にあたっては著作権の扱いや査読の方法あるいは特集テーマの選定など想像以上にマニュアルどおりにはいかない問題が発生しており、様々な調整あるいは判断が必要になっています。また最近ではソサイエティ制の導入、あるいは研究専門運営委員会の導入など、学会活動の広がりに対応して気を配るべき点、新たな課題も日常的に発生する状況です。このような裏方業務はある意味ちゃんとこなせて当たり前のところもあろうかと思いますが、一つ一つは小さなことでもきちんとこなせて初めて世の中に信頼される学会であり続けるのに必須のことだと思います。もちろん、今後とも学会を取り巻く環境の変化への対応を含め改善していくべきところも多々あるかと思えます。継承すべきところはきちんと継承しつつ少しでも今後の学会の発展を含め、お役に立てる成果を挙げられればと考えております。学会事務局の方々はじめとして関連する委員会の委員の方々、多くの方のお世話になるかと思いますが今後ともよろしくお願い致します。

（編集理事 三宅 功）